

## 大阪府 消費者教育の取組に関するイメージマップ(ライフステージに応じた身に付ける能力の考え方)

2016年3月31日

		幼児期	小学生期			中学生期	高校生期	成人期		
			低学年	中学年	高学年			大学・専門学校、若者	成人一般	特に高齢者
		様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に興味を持ち、それを取り入れる時期	主体的な行動、社会や環境への興味を通して、消費者の素地を形成していく時期			行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し、自らの行動を始める時期	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に様々な人々と協働し取組む時期	周囲の支援を受けつつも人生での豊富な経験や知識を、消費者市民社会構築に生かす時期
			様々な体験を通じて感性を養う時期	様々な体験を通じ、課題を発見し、調べ理解し、計画することができる力を養う時期	社会のルールにのっとった消費者行動ができるよう、よい消費者として、モラルを身に付けるとともに、行動・実践を通じて社会へ働きかける力を養う時期					
自立した消費者の育成	商品の安全	安全の理解・危険の回避	物の安全な使い方を知ろう			物を安全に使う ・トラブル発生時の対応を知ろう	消費者の権利と責任を理解し、トラブルの予防方法、対処方法を身に付けよう	トラブル解決に関する法律制度、相談機関を利用しよう	安全で危険の少ない消費生活を実践しよう	安全で危険の少ない消費生活の実践とその大切さを伝えよう
	生活の管理と契約	ルールや約束、契約の理解・選択	ルールや決まりを守って、物やお金を大切に使う	ルールの意義を理解し、お小遣いはよく考えて計画的に使う	身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できるようになる ・ルールを守った行動ができるようになり、権利や責任について意識しよう。	契約の仕組みを理解しよう ・消費者としての権利・責任を理解し、権利を大切にするとともに、ルールを守った行動を実践しよう。	契約制度、金融制度、経済の仕組みを知ろう (社会の構造を知る)	契約の内容を理解した上で、契約等を行おう ・他人に迷惑をかけることのないよう、適正な契約を選択しよう(マルチ商法等の勧誘には乗らない) ・加害者になりうることを理解しよう	自立した適正な契約を実践しよう	支えあいながらトラブル解決の法律制度、相談機関を利用しよう  支えあいながら、身近な支援者への相談等、契約に当たってより慎重な対応をしよう
	生活の設計・管理	欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することを覚えよう	自分でできることは自分でやろう	よく考えて行動し、節度のある生活をしよう	物や金銭の計画的な使い方を考えるようにしよう	計画的な買い物や貯金を実践しよう  自らの買い物等の消費行動を振り返って、よりよい行動を考えてみよう。	生涯を見通した生活設計を考えよう	生涯を見通した計画的な生活を実践しよう	社会の変化等に対応しつつ生涯を見通した計画的な生活を実践していこう	支え合いながら、生活環境の変化に対応し、生活を管理していこう
情報とメディア	情報リテラシー	身の回りの様々な情報に気づこう	消費生活に関する情報に関心を持ち、情報の選択の大切さを知ろう ・身近な人と進んで交流しよう	正しくない情報もあることを知る等、情報の評価や選択の方法を学ぼう	社会の情報化の進展に関心を持つ ・モラルを持った情報発信を心がけよう	情報モラルを認識し、情報を取捨選択する力を身に付けよう ・自他の個人情報適切に管理しよう	情報社会の特質やその社会への影響について考えるとともに、情報を適切に利用する習慣を身に付けよう ・情報の収集・発信は、適法に行おう(違法ダウンロード、アクセス、個人情報のホームページ等への書込み等はしない)	情報社会のルールやモラルが守られる社会をつくらう	支えあいながら、情報により注意して選択、安全な対応を心がけよう	
消費者市民社会の構築	消費が持つ影響力の理解	買い物や物に関心を持つ	身近な消費者問題に関心を持つ	地域の産業や消費生活の状況、良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解しよう	産業の状況、産業と国民生活との関連について理解しよう	消費者問題や社会課題の認識と取組の重要性を理解しよう	生産・流通・消費・廃棄が、環境や社会に与える影響を理解しよう	消費者市民社会の担い手としての自覚を持ち、他者へ消費者市民社会の考え方を広げていこう	消費行動が環境、経済、社会に与える影響と持続可能な社会実現の重要性、取組を次世代に伝えよう	
	持続可能な消費の実践	物を大切に使う気持ちを持つ	自分の生活に関心を持ち、お小遣いを使うときは、必要かどうかをよく考えてものを買うなど、生活に必要な習慣や技術を身に付けよう。	生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫しよう(リサイクルやゴミの減量、省エネ等)	地球を取り巻く地球温暖化などの環境問題や外国の社会・経済とのつながりを理解しよう	消費生活が与える影響を、地球規模で考え、地球にやさしい消費生活を実践しよう	国内だけでなく国際的な視点から持続可能な消費をめざした行動を考えよう	持続可能な社会を常に意識した消費行動やライフスタイルに取り組もう		
	消費者の参画・協働	協力することの大切さを理解しよう	集団の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにしよう	地域社会の一員としての自覚を持つようにしよう	世界の国々の人々とともに生きていくことの大切さを自覚しよう	課題解決や公正な社会形成について理解しよう	身近な消費に関わる問題の解決に向け参画・協働の意義を理解しよう	社会的課題を解決し、消費者市民社会の実現をするため、様々な活動に取り組もう	消費者市民社会の担い手として、参画・協働を実践、社会的課題を解決していこう	様々な協働を実践し、伝承していこう
教育の場		【家庭】【幼稚園・保育園】 【地域】	【学校】【家庭】【地域】	【学校】【家庭】【地域】	【学校】【家庭】【地域】	【学校】【家庭】【地域】	【学校】【家庭】【地域】	【大学等】【家庭】 【地域】【職域】	【地域】【職域】【家庭】	【地域】【家庭】

※本マップに記載した「ライフステージに応じた身に付ける能力の考え方」はイメージの例示であり、消費者教育を進めるに当たって参考とするものである。